

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04660

研究課題名(和文) イングリッシュ・バカロレア体制下における美術カリキュラム編成の集团的動向

研究課題名(英文) Collective tendencies in art curriculum organization under the English Baccalaureate System

研究代表者

直江 俊雄 (Naoe, Toshio)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：10272212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：2010年に英国政府が導入を決めた学校教育の新しい評価制度であるイングリッシュ・バカロレアは、中等教育修了一般資格における英語、数学、歴史または地理、理科、外国語の5教科の成績を重視するもので、評価の対象外となる芸術教科にとっての影響が懸念される。このような状況に対し、学校における美術教育者は現実の指導の中でどのように応じているのかを、美術カリキュラム編成の集团的動向を中心に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

- (1) 国の学力振興政策における芸術教科の位置づけについて、英国の事例をもとに制度と実態に即した分析を行った。これにより今後の日本における芸術教育の社会的意義に関する議論に貢献することができる。
- (2) 美術カリキュラム編成の集团的動向分析による一時代・地域の教育実態の解明手法について年代比較、地域比較ならびに国際連携の可能性と意義を示すことができた。
- (3) 英国美術教育による世界的影響の一つである『芸術による教育』の現代における再評価について、現代に通じる芸術観と対話の可能性から一つの見解を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：English Baccalaureate, an evaluation system for school education introduced by the British Government in 2010, emphasizes the achievement of five subjects in English, Mathematics, History or Geography, Science, and Foreign Language in the General Certificate of Secondary Education. Therefore, there is concern about the impact on art subjects in the system. In this research, how the art educators at school responded to this situation in the teaching was clarified, focusing on the collective tendency of the art curriculum organization.

研究分野：芸術教育

キーワード：美術 教育 英国 中等教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) イングリッシュ・バカロレア体制下の英国美術科教育

2010年に英国政府が導入を決めた学校教育の新しい評価制度であるイングリッシュ・バカロレアは、中等教育修了一般資格における英語、数学、歴史または地理、理科、外国語の5教科の成績を重視するもので（Department for Education “Policy Paper: English Baccalaureate” 2015）、評価の対象外となる芸術教科にとっての影響が懸念される。このような状況に対し、学校における美術教育者は現実の指導の中でどのように応じているのか。

研究代表者は1992年のナショナル・カリキュラム美術編の初導入以後、イングランド中西部地域約130校の中等学校を主な対象として制度と学校教育の実態との関係を实地に継続調査し、国による教育内容の統一的な基準と、多様性と創造性を核とする美術科教育との間に生じた緊張と警戒が、その後の約20年の間に協調的な関係へと変化してきたことを明らかにした（大学美術教育学会誌1996、1997、芸術研究報2012、2014、2015、美術教育学研究2014）。

(2) 美術カリキュラム編成の集団的動向

一定水準の教員養成教育を受けた専門性のある美術科教師のもとでは、制度による統一性と、教師の実践的研究による創造的なカリキュラムの編成・実施との間に、動的な協調関係があると考えられる。変化と多様性を示す各教師によるカリキュラム編成実態の集積を集団的な傾向として把握することによって、その時代と地域に現実に展開している教育の大きな動きを明らかにするのが、研究代表者が独自に取り組んできた、美術カリキュラム編成の集団的動向分析である。1991年に東京都内8地域の公立中学校を対象とした調査に始まり、2012年には全国から抽出した1,162校に調査を行った（228校有効回答）（芸術教育学1992、1996、美術教育学1993、全国調査 中学校美術科のカリキュラム創造力2012ほか）。

本研究では、英国内の研究協力者と連携し、英国の状況に適した的確な動向把握の指標へと改良することによって、イングリッシュ・バカロレア体制の影響を新たな視点で明らかにする。

(3) 芸術による教育

「芸術による教育」は、英国の美術批評家ハーバート・リードが同名の著書（1943）で展開した主要な概念であり、教育全体の基礎としての芸術の役割を主張して、英国や日本等における学習者中心の美術教育の発展を支えた。その後、英国美術教育の主流が知性主義に移って影響が後退したが、イングリッシュ・バカロレア体制下であらためて芸術教育の役割が問われる近年の状況は、この概念を再検討する好機ではないかと着想した。

2. 研究の目的

英国政府が現在進めるイングリッシュ・バカロレア体制の教育施策が実際の芸術教科の教育内容に与える影響について、主に美術カリキュラム編成の集団的動向分析の手法を用いて明らかにし、芸術による教育の現代における役割を日英の対話により提示する。とくに、以下の三点からこの問題に取り組む。

- (1) 1994年から調査を継続しているイングランド中西部地域の中等学校における変化
- (2) 日本の美術カリキュラム分析で開発した集団的動向分析手法の英国における適用と発展
- (3) 「芸術による教育」による教師のエンパワーメント

3. 研究の方法

(1) 主にイングランド中西部地域内の中等学校を訪問し、美術科年間指導計画分析、授業観察、教師の聞き取り調査を行うとともに、関連資料を収集し制度改革の内容と影響を分析する。

(2) オンラインフォームにより、美術カリキュラムの編成動向を調査する。

調査名称：Creative Curriculum Survey 2019

実施者：直江俊雄（筑波大学）、リチャード・ヒックマン（ケンブリッジ大学）、ピーター・カー（バーミンガム市大学）

調査対象：イングランド中西部を中心とするバーミンガム市大学関連の中等学校美術科

実施方法：バーミンガム市大学からの電子メール依頼、オンラインフォームによる回答

調査内容：キー・ステージ3（7から9学年）における美術カリキュラムの編成動向

内容構成：1. 新ナショナルカリキュラムへの見解 2. 中等教育修了一般資格試験への見解

3. カリキュラムの実施 4. 美術について書くこと 5. 自由記述

実施期間：2019年10月1日-11月30日

有効回答数：49校

研究倫理：「イングリッシュ・バカロレア体制下における美術カリキュラム編成の集団的動向」

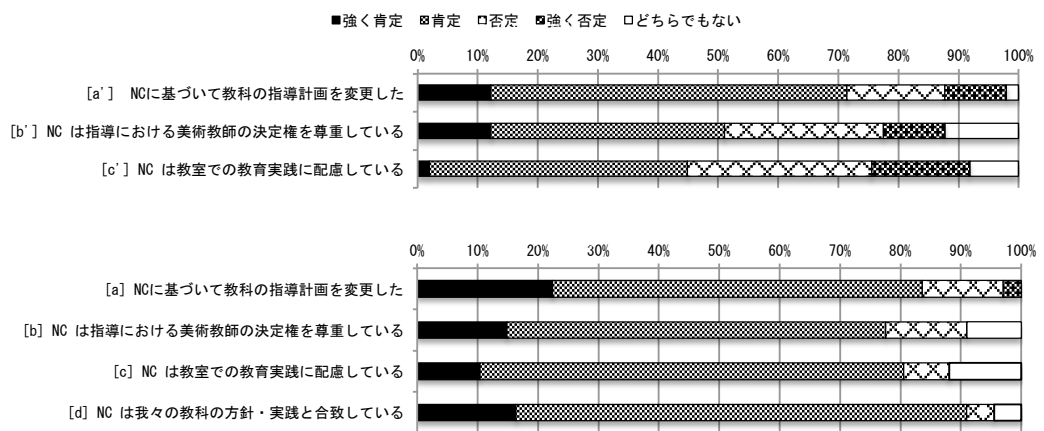
筑波大学芸術系研究倫理委員会承認（芸019-2、令和元年5月15日）

(3) 現代における教師のエンパワーメント等を課題として、芸術による教育を再解釈する。

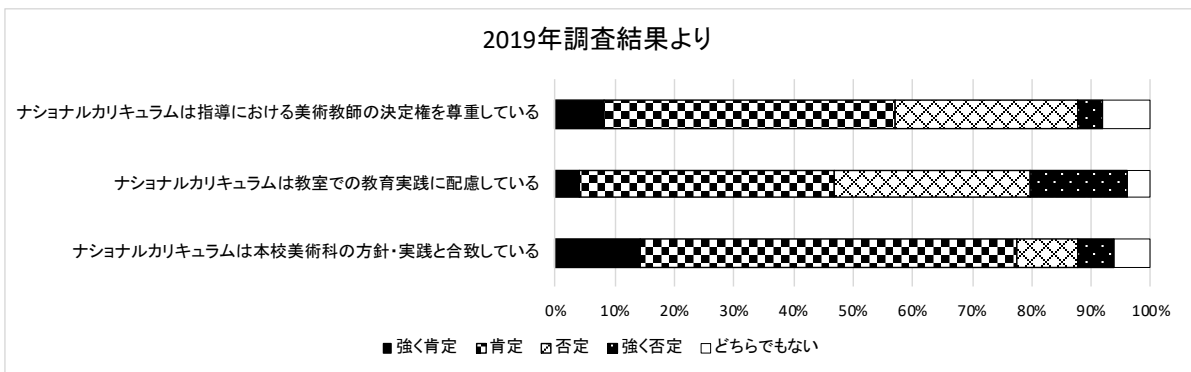
4. 研究成果

(1) ケンブリッジ大学、バーミンガム市大学の協力により、英国の中等学校を訪問し、美術カリキュラムの実施状況について、教員との面談や教室・授業観察によって詳細な具体例の情報を収集した。特に着目できる点は、英国学会の調査によって明らかになった美術カリキュラムの実施上の様々な困難が今回の調査対象校では明確には見られなかったことであり、より広範囲にわたる質問紙調査の意義が明確になった。イングリッシュ・バカロレア体制を軸に近年の英国教育制度改革を検討した上で、その芸術教科への影響に関して英国で実施された3つの調査結果を比較するとともに、1994年から2017年にかけての学校現地調査の結果を踏まえて、5科目を重視したこの教育改革が美術教育に与える意味を考察した（美術教育学研究 2019）。

(2) オンラインフォームによる調査からは、1994年、2010年調査時と比較して、現イングリッシュ・バカロレア体制下における美術科教育の状況に関する見解について大きな変化が見られた。例えば、「新ナショナルカリキュラムへの見解」については、1994年から2010年までの間に醸成されてきた学校現場からナショナルカリキュラムへの評価は、2019年の調査においては明確に低下している。こうした傾向は、学校訪問による聞き取りからは明確に把握できなかった点であり、1992年のナショナルカリキュラム導入から20数年かけて築かれてきた制度と実践との関係への否定的な影響が憂慮される（下記グラフ参照）。



ナショナル・カリキュラム (NC) の影響に関する見解 (上段：1994年調査、下段：2010年調査)



(3) また、『芸術による教育』(H. リード、1943) の再検討に関する研究成果を、海外著者との共著 *Learning Through Art: Lessons for the 21st Century? (『芸術を通しての学習：21世紀への教訓])* の中の章 *An Organic and Multilayered Conception of Art: Dialogues Between Read and Art Educators (有機的・多層的芸術観：リードと美術教育者たちの対話)* として発表した。これは、『芸術による教育』の著者であるハーバート・リードと当時の美術教育者との対話における成果と課題を指摘し、その有機的・多層的芸術観を明らかにするとともに、現代の美術教育者が教育実践と研究との対話を通して未完の対話を継続していくことの意義を主張したものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 51
2. 論文標題 イングリッシュ・バカロレア体制下における美術教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoe Toshio	4. 巻 1
2. 論文標題 An Organic and Multilayered Conception of Art: Dialogues Between Read and Art Educators	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LEARNING THROUGH ART: LESSONS FOR THE 21ST CENTURY?	6. 最初と最後の頁 92-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24981/978-LTA2018-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Toshio Naoe
2. 発表標題 Japanese Art Education in the Asian Perspective
3. 学会等名 Prospect and Role of Asia Art Education in Multi-cultural Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Naoe
2. 発表標題 Art Writing Education in the Era of Artificial Intelligence
3. 学会等名 2018 Visual Art Education Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Naoe
2. 発表標題 Barrier or Catalyst: Cross-cultural and Language Issues for Doctoral Researchers in Japan
3. 学会等名 Provoke: International Perspectives of Visual Arts Research in Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshio Naoe
2. 発表標題 Education Through Art Writing: Bringing Art into Adolescent Lives
3. 学会等名 International Society for Education through Art 2017 General congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 直江俊雄
2. 発表標題 国際美術教育学会誌に見る研究動向
3. 学会等名 日本美術教育研究発表会2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshio Naoe
2. 発表標題 Art Writing as Agent for Change
3. 学会等名 International Journal of Art and Design Education Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Toshio Naoe, Edited by Richard Hickman	4. 発行年 2019年
2. 出版社 John Wiley & Sons, Inc.	5. 総ページ数 14 / 1856 (1261-1274)
3. 書名 The International Encyclopedia of Art and Design Education	
1. 著者名 神林恒道、ふじえみつる、相田隆司、赤木里香子、今井真理、大泉義一、大橋功、小野康男、金子一夫、佐藤賢司、佐藤哲夫、佐原理、神野真吾、鷹木朗、竹井史、竹中悠美、直江俊雄、中村和世、永守基樹、新聞伸也、松岡宏明、水島尚喜、三橋純予、茂木一司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 9 / 262 (157-165)
3. 書名 美術教育ハンドブック	
1. 著者名 宮脇理、佐藤昌彦、山木朝彦、伊藤文彦、直江俊雄 ほか40名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 学術研究出版 / ブックウェイ	5. 総ページ数 7 / 423 (390-396)
3. 書名 アートエデュケーション思考	
1. 著者名 Toshio Naoe, Edited by Anita Sinner, Rita L. Irwin and Jeff Adams	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Intellect	5. 総ページ数 10 / 277 (225-234)
3. 書名 Barrier or Catalyst: Cross-Cultural and Language Issues for Doctoral Researchers in Japan, in Provoking the Field: International Perspectives on Visual Arts PhDs in Education	

1. 著者名 直江俊雄, 日本教科教育学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育出版株式会社	5. 総ページ数 6 / 192 (116-121)
3. 書名 第3章第7節「図画工作科・美術科とはどのような教科か」『教科とその本質－各教科は何を目指し、どのように構成するのか－』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

筑波大学 芸術教育学 直江俊雄研究室 http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----